
デーモンキラーズ

ジャッカル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デーモンキラーズ

【Nコード】

N5832K

【作者名】

ジャツカル

【あらすじ】

2100年人口の急激な増加により、人類は土地不足に悩まされていた。

そのため、世界中の科学者達がこの現状を打開するべく、集結し、会議を開いた。

そこで、ある科学者が、「この世界を捨てて近年発見されたばかりの別世界へ移住すればいいではないか」と言った。

しかし、それはあまりにもリスクを伴うため、実験台としてその科

学者の息子を別世界に派遣することにした。

そう、僕だ。

始まり（前書き）

僕は八神翔、父が科学者をやっていて、母が他界している。

父はずっと書齋で別世界の研究をしているため、家事全般は僕がやっております、学校へ行けず、父と話すこともあまりなかった。

そのため、寂しさを紛らわせるため、様々な格闘技をやっていた。いつもと同じように鍛錬をしていると、突然父に書齋へ呼ばれた。僕は何事かと思って父の書齋へ行ってみると・・

父が僕に「別世界へ行ってくれないか」と、突然言ってきた。

「何で？」と父に尋ねてみると・・

父は「急激な人口増加で、土地が不足しているから、別世界への移住を考えている。だから、調査してきてほしい。」と言ってきた。

僕はこの世界に嫌気がさしていたため、了承した。

その後、出発の準備をし、再び父の書齋へ行ってみると、ブラックホールのような真っ暗な空間が広がっていた。

その後、父にこっちの世界に帰って来るための入り口を作るリモコンのような装置を渡された。

そして、僕は別世界への期待を胸にひめ、ブラックホールのような物に飛び込んだ。

始まり

2100年人口の急激な増加により、人類は土地不足に悩まされていた。

そこで、世界中の科学者達がこの問題を打開する方法を考えていたところ、ある科学者がこの世界を捨てて別世界に移住すればいいではないかという考えを提案した。しかし、それはあまりにもリスクを伴うため、実験台としてその科学者の息子を使うことにした。

そう・・・僕だ。僕は八神翔、16歳。父を科学者に持つ以外いたって普通の高校一年生。母を小さい頃亡くしているため、料理はじぶんでやっている。

別世界？（前書き）

周りを見渡してみると、そこには広大な森が広がっていた。

「本当にここが別世界なのか？」と自問自答してみるが、何も分らない。

そのため、探索を試みることにした。

少し歩いてみると、背後から「ガサガサ」と草をかき分ける音がしてきたため、後ろを見てみると、カマキリのような手を持ち、狼の顔をした二足歩行をした生物が現れた。

そして、突然襲いかかってきた。突然のことに同様し、避けることが出来ず、腹を深めに切り裂かれ動けなくなってしまう、諦めたその時、横の茂みから、「ファイヤーアロー」という声が聞こえたかと思うと、僕に襲いかかってきた生物に火の矢が刺さり、その生物は燃え尽きた。

僕が呆気に捕らわれていると、中年ぐらいのフードをかぶった男が現れ、「リカバリ」と唱えると、僕の傷は徐々に治っていき、傷跡がなくなった。

僕があまりの驚きに再び呆気に捕らわれていると、男が「魔法に驚いているようだ、どうした？」と言ってきたため、僕が別世界から来たことを伝えると、男は、驚いたが、冷静になり、この世界についての話しをした。

別世界？

2100年人口の急激な増加により、人類は土地不足に悩まされていた。

そこで、世界中の科学者達がこの問題を打開する方法を考えていたところ、ある科学者がこの世界を捨てて別世界に移住すればいいではないかという考えを提案した。しかし、それはあまりにもリスクを伴うため、実験台としてその科学者の息子を使うことにした。

そう・・・僕だ。僕は八神翔、16歳。父を科学者に持つ以外いたって普通の高校一年生。母を小さい頃亡くしているため、料理はじぶんでやっている。

この世界について。（前書き）

フードの男によると、この世界はパレット、シーク、アバ、と呼ばれる三カ国から出来ているらしい。

また、この世界では、僕がいた世界とは違い、魔法が存在しているらしい。魔法には、火、水、風、土、雷、の五大属性と光や闇、時創などの特殊属性が存在し、特殊属性を持っている人は指で数えられるぐらいしかないらしい。

また、魔法にもランクがあり、初級魔法、中級魔法、上級魔法、最上級魔法、古代魔法があるらしく、ランクが上がることに必要な魔力が増えるらしい。

また、魔物にもランクがあり、SSS〜Eまであり、さっきの生物はBらしい。

また、この世界にはギルドと呼ばれる魔物を狩る為の組織があり、これもSSS〜Eまでにランク付けされているらしく、僕を助けた男はSSランクで、名前はビスだそうだ。

この世界について。

2100年人口の急激な増加により、人類は土地不足に悩まされていた。

そこで、世界中の科学者達がこの問題を打開する方法を考えていたところ、ある科学者がこの世界を捨てて別世界に移住すればいいではないかという考えを提案した。しかし、それはあまりにもリスクを伴うため、実験台としてその科学者の息子を使うことにした。

そう・・・僕だ。僕は八神翔、16歳。父を科学者に持つ以外いたって普通の高校一年生。母を小さい頃亡くしているため、料理はじぶんでやっている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5832k/>

デーモンキラーズ

2010年10月28日05時36分発行